

協議会だより

DHA・EPA協議会
〒151-0062
東京都渋谷区元代々木町 32-7
一般財団法人日本水産油脂協会内
TEL & FAX: 03-3469-6931
URL: <http://www.dhaepa.org/>
E-mail: dha_epa@par.odn.ne.jp

森永乳業株式会社 清水 隆司

DHA・EPA 資源と不漁におけるヒトの存在

こここのところ毎年のように報道されていたサンマやシラスウナギ(ウナギ稚魚)の不良に加えて、昨年からはイカやサケ・マスの深刻な不漁のニュースが頻りに流れています。試しに「2018年、不漁」というキーワードで検索すると、様々な魚種の不漁を伝えるニュースがズラリと並んでいます。その中で目についた「日刊水産経済新聞」のページから、「不漁」をキーワードにサイト内検索すると285件がヒットし、予想通り2017年以降はサンマ、イカ、シラスウナギ、サケ・マスが頻りに登場します。この調子では、塩焼きやムニエル、フライやシチュー、鍋など様々な料理され老若男女を問わず人気のサケ・マスが気軽に食べられなくなり、ウナギのようになるのではないかと心配になります。

その一方で、5月22日付けの日刊水産経済新聞によると、『北太平洋まぐろ類国際科学小委員会(ISC)の資源評価案が21日に公表され、太平洋クロマグロ資源が回復傾向にあることが明らかとなった。』という記事がありました。日本人が最も好む魚のひとつであるマグロの資源量回復の兆しは、大変喜ばしいことです。また、5月16日に開催した当協会の総会講演会では、国立研究開発法人水産研究・教育機構 国際水産資源研究所の清藤秀理先生にかつお・まぐろ類の資源状況」と題して講演いただきましたが、その中で、カツオはどこからともなく湧いてくる「ゴキブリ」のような魚と呼ばれているというお話がありました。しかし、昨年日本ではカツオが不漁となり、かつお節の値上げまでありましたので、個人的には少し気掛かりです。

そもその資源量の急激な減少は、気候変動や海洋環境の変化による影響があるにせよ、ヒトによる環境破壊などの負荷増大の影響が大きいと考えれば、人為的な直接作用である乱獲と合わせて、ヒトの影響は計り知れないものと考えられます。

農作物とは異なり、水産資源は海洋での大きな食物連鎖の影響や、地球・海洋環境の変化の影響を受けて容易に変動し、その回復には長い時間を要する筈です。今後も世界的な水産資源量が維持され、ヒトがその恩恵を受け続けるためには、色々と考えなければならないことが多くありそうです。

《幹事会のうごき》 平成30年5月11日(金)15:00~17:00に、一般財団法人日本水産油脂協会新館において平成30年度第2回幹事会が開催された。

- ・5月16日に開催される第21回通常総会に向けて、幹事各位の役割分担をはじめ総会についての準備が行われた。
- ・本年度実施する「研修会」について、視察先を検討した。
- ・秋の公開講演会の講師依頼について、進捗状況が報告された。2名の講師が決定しています。